

※スケジュールは中止、変更、追加になる場合がありますので、必ず事前に博物館にご確認ください。

展覧会

**■明治150年記念 特別展**  
**「教室で出逢った唱歌と童謡**  
**～音楽教科書が語る日本のあゆみ～」**  
 11/15(木)～1/6(日)  
 協力:澤崎真彦(東京学芸大学名誉教授)  
 東京学芸大学附属図書館(予定)  
 浜松生涯学習音楽協議会

150年前に江戸から明治に変わった日本。それまでの伝統文化と、西洋から輸入した異文化がぶつかり、溶け合って生まれた新たな日本文化。国の近代化を目指した新しい教育制度のもと、美しいメロディに美しい言葉を載せて日本人の心を作ってきた唱歌。その歴史を、教科書や浮世絵から探る。

**■講演とコンサート**  
 12/8(土) 18:30 天空ホール 500円  
 講師:澤崎真彦(東京学芸大学名誉教授)  
 演奏:浜松生涯学習音楽協議会 他

**【ミニ展示】**  
**■「モンゴルの暮らしや文化を知ろう!!」**  
 4/1(日)～5/6(日)  
 馬頭琴、住居「ゲル」の小型模型、衣服、古いや遊戯の玩具シャガイなどを展示。  
**■「世界の可愛い人形たち」**  
 4/1(日)～5/6(日)  
 楽器を持った世界の愛らしい人形を、木、金属、粘土など素材別に展示。

特別企画

**■《足踏みリードオルガンDAY》**  
**日本リードオルガン協会第23回浜松大会 公開イベント**  
 明治150年記念コンサート  
**「足踏みリードオルガンの魅力～児童合唱とともに～」**  
 6/9(土) 15:00～16:30 アクトシティ浜松音楽工房ホール  
 入場無料 要申込

出演:日本リードオルガン協会会員  
 浜松ライオンネット児童合唱団  
 幕末明治のキリスト教と西洋音楽の受容、その後の音楽教育への西洋音楽の採用は、日本の音楽文化の一大革命であった。その中で足踏みリードオルガンが果たした役割の大きさは計り知れない。リードオルガンの保存と伝承を担う日本リードオルガン協会との共催で、オルガンの仕組みを探り、児童合唱の唱歌とともに良き時代を懐かしみ、素朴で温かな自然派楽器リードオルガンの魅力を満喫する。

**「中はどうなっているの?～リードオルガン解体ショー」**  
 6/9(土) 13:00～14:15 アクトシティ浜松音楽工房ホール 入場無料 要申込

**■子ども・おとなワークショップ「足踏みリードオルガンをひいてみよう!」**  
 6/10(日) ◆午前の部 10:00～11:45 ◆午後の部 13:30～15:15  
 アクトシティ浜松研修交流センター  
 参加無料 要申込 講師:日本リードオルガン協会会員

講座・ワークショップ

**【子どもワークショップ】**  
**■「一休さんも吹いた笛・小さな尺八「一節切」をつくって鳴らそう!」**  
 7/28(土) 13:30～16:00  
 アクトシティ浜松研修交流センター 要申込 500円  
 講師:相良保之(古典尺八「一節切」演奏者)

**■「インドネシアの伝統芸能体験**  
**～影絵・ガムラン・宮廷舞踊～(予定)**  
 10/14(日) (詳細未定)  
 アクトシティ浜松研修交流センター

**【親子ワークショップ】**  
**■「毛糸で楽器の絵を描こう!」**  
 10/28(日) 13:00～16:30(予定)  
 アクトシティ浜松研修交流センター 要申込 500円  
 講師:安岡真理・森谷紗世(静岡市美術館学芸員)  
 協力:静岡市美術館

コンサート

**《レクチャーコンサート》** チケットは2カ月前から発売  
**■世界無形文化遺産**  
**「バウルの響き～インド西ベンガル州の吟遊詩人～」**  
 6/6(水) 19:00 天空ホール 3,000円  
 出演:バルバティ・パウル

同時開催

5/3(木)～6/10(日)  
 井生明 写真展  
 「バウルを育む黄金なる大地」

**■「18世紀フランス宮廷のバグパイプ「ミュゼット」**  
 1/23(水) 19:00 天空ホール 2,500円  
 出演:上尾直毅(ミュゼット) ほか  
 ヨーロッパ、北アフリカ各地に分布するバグパイプは牧畜民、農民の誇り。その中で唯一、宮廷で愛好されたミュゼットは、18世紀フランス田園趣味の象徴であった。

**■「涙のきらめき～17世紀ザルツブルク・祈りの宮廷音楽～」**  
 3/17(日) 18:15 天空ホール 2,500円  
 出演:アンドレア・インギッシャーノ(コルネット)  
 杉村智大(ナチュラルトランペット) 宮下宣子(サクバット)  
 古楽金管アンサンブル「アンジェリコ」 ほか  
 死者のためのミサ、レクイエム。金管古楽器のコルネット、ナチュラルトランペット、サクバットとオルガン、ドゥルツァン、ヴァイオリン、リコーダーの大編成アンサンブルで、バロック期教会音楽の醍醐味を味わう。

**■「フランスの狩猟ホルン」(予定・企画中)**  
 10/13(土) 14:00 アクトシティ浜松音楽工房ホール 3,000円  
 フランス貴族の狩猟文化に欠くことのできないホルン。その伝統と妙技を、由緒ある狩猟ホルングループの来日で披露の予定。

**《ミュージアムサロンコンサート in May》**  
 ゲストを迎えでのミニコンサート。5月連休のラインナップ。

**■「深き魂の祈り～韓国のコムゴ、チャンゴ～」**  
 5/3(木) 14:00、15:30 天空ホール 出演:バク・ソニョン リ・チャンソプ

**■「風薫る草原～モンゴルの横笛リンベ、ヨーチン、ホーミー、馬頭琴～」**  
 5/4(金) 14:00、15:30 天空ホール  
 出演:マハバール・サウガゲレル 山本敦子

**■「透明なきらめき～ノルウェーのハーディングフェーレ、セリエフルト、角笛、口琴～」**  
 5/5(土) 14:00、15:30 天空ホール  
 出演:ルカルTOKYO(酒井絵美 MORTEN)

**■「大地の歌声～南シベリア、トゥバ共和国の喉歌、イギル、ドシブルール～」**  
 5/6(日) 14:00、15:30 天空ホール  
 出演:寺田亮平

神祈り美にふれる

**■「館長対談～この人に聴く～」**  
 14:00 天空ホール 協力:静岡文化芸術大学  
 第一線で活躍中の研究者や音楽家等を招き、その仕事と人生観について、興の向くままの向くままにおしゃべりする新企画。(※12月以降も適宜開催予定)

8/4(土)「ガーン!と仰天、浜松まつりのラッパ」  
 奥中康人(静岡文化芸術大学芸術文化学 教授)

8/8(水)「パリから学ぶ芸能の未来」  
 梅田英春(静岡文化芸術大学芸術文化学 教授)

8/11(土)「人生はテルミンとともに」  
 竹内正美(テルミン演奏家)

11/17(土)「人をつなぐデザインのカ」  
 峯郁郎(静岡文化芸術大学文化芸術研究センター長 教授)

**■ギャラリートーク**  
 毎日数回、展示品をひとつ選んでの10分間ショート解説。

**■ガイドツアー**  
 原則として日曜日、午前・午後2回開催する約30分間の展示解説。他の催し物がある時は中止または変更。

**■ミュージアムサロン(ミニコンサート&レクチャー)**  
 不定期(日曜・祝日)開催の、職員やゲストによるミニコンサート、ミニレクチャー。

**■音楽の広場**  
 不定期(日曜・祝日)開催の市民によるミニコンサート。



Hamamatsu Museum of Musical Instruments  
**浜松市楽器博物館だより**

No. 122  
 2018. 3. 20  
 本紙はホームページでも見ることができます。

ミニ展示開催中 5月6日まで **モンゴル式占いが大人気!**  
**モンゴルの暮らしや文化を知ろう!!**

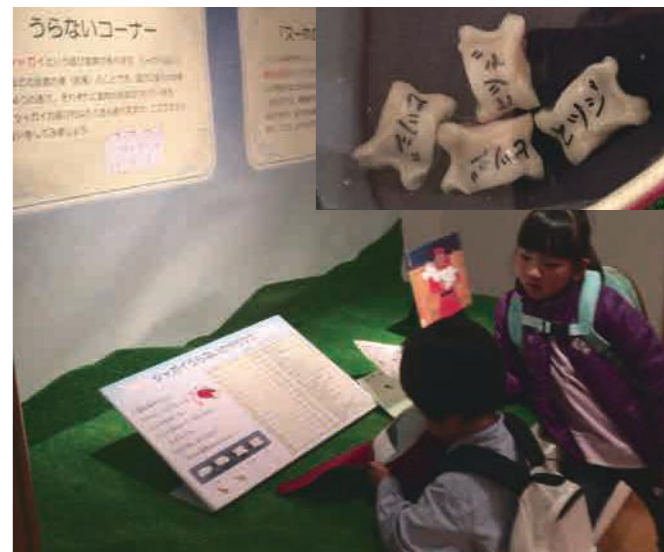


上着、ベルト、靴を展示しています。モンゴルは現在モンゴル国と中国内モンゴル自治区の2つに分かれていて、衣装も少し違うようですが、展示してあるのは内モンゴルの衣装です。馬に乗った少年の写真で顔出しパネルも作りました。記念写真をどうぞ。

2月10日(土)から5月6日(日)までミニ展示「モンゴルの暮らしや文化を知ろう!!」を開催しています。馬頭琴などモンゴルの楽器は常設展アジアコーナーにいつも展示していますが、このミニ展示では、常設展にはない資料も展示しています。

まず、モンゴルの住居です。大草原に暮らす遊牧民は、定住生活ではありません。馬や羊、山羊、駱駝などの家畜は草を食べますので、その草を求めて人は移動生活をします。ですから住居も移動できるものでなければなりません。その住居は折りたたんで運べる家で、「ゲル」と言います。木の骨組みにフェルトの壁とフェルトの屋根を取り付け、中の床には絨毯を敷き詰めます。そして机やベッド、食器棚、ストーブなどの家具を置きます。これらを移動の度に運ぶのです。実際のゲルは大きいので展示できません。そこで今回は小さな模型のゲルを展示しています。しかも屋根の半分が空いていて、中の様子がわかるようになっています。小さな馬頭琴もあって、なかなか素敵です。ゲルの外にはモンゴルの服を着た男の子と女の子の人形、そして羊毛でできたかわいい羊の親子も並んでいます。

他には食器や、お酒の瓶も展示しました。古いモンゴルの地図や人々の暮らしを描いた絵もあります。それからモンゴルの英雄と言えばもちろんチンギス=ハン。写真は無いので肖像画です。民族衣装は、男性と女性用の帽子、



浜松市楽器博物館だより

平成30年3月20日発行 No. 122 編集 浜松市楽器博物館  
 〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1 TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129 URL http://www.gakkihaku.jp/



安代舞



馬頭琴体験

2月12日(月・祝)には、ミニ展示オープン記念として「モンゴルの歌と踊りと馬頭琴・コンサートと体験」イベントを開催しました。出演と講師は、名古屋を中心にモンゴル文化の普及や学校などへの出前授業をされている民間グループ「サランモル」(モンゴル語で「月の馬」の意)の皆さん3人と、内モンゴル出身で名古屋にお住まいのモンゴル人リュウ・ウインドスさんの4人。天空ホールでのミニコンサートは、まずモンゴル式の客を迎える儀式で始まり、続いて馬頭琴の合奏で白鳥、走る馬、など有名な曲を演奏しました。そしてモンゴルの動物や暮らしのクイズをはさんで、リュウさんのホーミーが披露されました。ホーミーとは一人で同時に2つの声を出して歌う、モンゴルの喉歌(のどうた)です。フィナーレは、会場に集まった皆さん全員が布を持ち輪になって踊る「安代舞」を馬頭琴の伴奏で踊りました。さらにその後は、モンゴル衣装と馬頭琴演奏の体験タイムもありました。大人も子供もモンゴルの美しい服を着て写真をパチリ。馬頭琴体験も大人気で、最後には子供たちの大合奏となりました。

馬頭琴が登場するモンゴルのお話「スーホの白い馬」は小学校の国語の授業でも勉強しますし、モンゴル出身の力士が日本で活躍していますので、日本人にとってモンゴルは馴染みのある国のひとつですね。

モンゴル関連のイベントですが、連休の5月4日(金)14時と15時半に、天空ホールで、マハバル・サウガゲレルさんと山本敦子さんをお迎えして、横笛リンベ、打弦楽器ヨーチン、それに喉歌ホーミー(馬頭琴伴奏付)のミニコンサートを行います。皆さん是非お越しください。

## ミニ展示「世界の可愛い人形たち」

昨年11月3日(金)から本年1月14日(日)に開催した企画展「小さな可愛い世界旅行～人形・切手の楽器たち～」が好評裏に終了しましたが、2月10日(土)からは、企画展で展示した人形や展示しなかった人形をいくつかを選んで、ミニ展示「世界の可愛い人形たち」を開催しています。

人形は、当館名誉館長で大阪音楽大学名誉教授の西岡信雄氏が、長年にわたって世界各地から収集したものです。これらの人形は楽器を演奏している様子を映し出していて、楽器をどのように演奏するのか、どんな衣服を着ているのかなど、その国の演奏習慣や文化を窺い知ることができます。

企画展は、人形たちを地域や国別に分類し、人形とともに世界旅行をすることをコンセプトとした展示でしたが、このミニ展示は、人形の素材に注目し、「布」「木」「陶(とう)」「土」「金属」「その他」に分類して展示しています。布を使った人形の鮮やかさ、木でできた人形の素朴さ、上品な陶の人形、小さい土の人形の精巧さ、金属製の人形の重厚感、さらには紙や種子を使って作られた人形もあり、素材によって、また作り方によっても人形の個性はさまざまです。

どのような楽器を持っているのか、どのような表情をしているのか、色々な角度から人形を見てみると、新たな発見があるかもしれません。是非博物館に足をお運びいただき、お気に入りの人形を探してみてください。



期間：平成30年2月10日(土)～5月6日(日)  
会場：楽器博物館 展示室

## 聖隷クリストファー中学校特別授業



日時：平成30年1月12日(金) 9:30～15:00  
場所：楽器博物館、研修交流センター  
講師：田上知穂(聖隷クリストファー中・高等学校教員)、  
嶋和彦(当館館長)、  
梅田徹、佐藤さくら、野口夏菜(当館職員)  
対象：聖隷クリストファー中学校1年生 45人

1月12日(金)に聖隷クリストファー中学校の特別授業を行いました。この取り組みは平成22年度から実施し、今年度で9年目になります。この特別授業は、国際理解を深めるために同校と協同企画したもので、当館の楽器や音楽を切り口に、世界の文化を知る授業を行いました。

本年は、「馬頭琴とモンゴルの人々」、「インドネシアの“アングレン”」、「管楽器の歴史と仕組み」、「展示されている楽器の調べ学習」をテーマにそれぞれの地域の文化や風土、楽器に込められた人間の知恵や工夫といった楽器や音楽文化を通し、世界の人々の生き方や考え方について学びました。

この特別授業は、“展示室を活用して博物館で授業を行う”というユニークな取り組みとして始めましたが、演奏体験や実物を身近に観察できる環境を活かして、学校教育に博物館の長所を合わせた授業内容となるように組み立てられています。また、授業内容は中学校教員と博物館職員が何度も打ち合わせを重ねて実施しています。

この博物館での活動を通して、世界の多様な文化や価値観について考えるきっかけになればと思います。

## 楽器博物館友の会第15回学芸員との夕べ「コンサート&交流会」

楽器博物館友の会は、今年で創立15周年を迎えました。会員の方々と当館職員との交流を深めることを目的とした「学芸員との夕べ」の記念すべき第15回目は、「チェンバロとピアノによるサロン音楽の旅～バロックからウィーン・オペレッタ、ラグタイムまで～」と題した中野振一郎さんと川田知子さんによるコンサートと、交流会の二部構成で行われました。

コンサートでは当館所蔵のチェンバロ(モモセハーブシコード、東京、1995年)とジラフ・ピアノ(作者不詳、ニューヨーク、19世紀)を使用し、ガルツピ作曲「アンダンテ ハ長調」、オッフエンバック作曲「手紙のアリア」、ジョプリン作曲「オリジナル・ラグ」など、バロック期からオペレッタ、近代のラグタイムまで、ヴァイオリンの演奏も交えながら、さまざまな音楽を演奏していただきました。

交流会では、普段は会話する機会の少ない職員や出演者の方の挨拶などを通して、参加者が交流を深めました。会員の方々には楽器博物館をより身近に感じていただけたのではないのでしょうか。職員にとっても、日頃当館を支えてくださる方々に直接感謝を伝えることのできる良い機会となりました。

友の会では、年数回の主催イベントや会報の発行、招待券の配布や会員本人の無料入館など、様々な特典をご用意しております。ご興味がありましたら是非事務局(楽器博物館)までお問い合わせください。



日時：平成30年2月24日(土) 17:45～20:30  
出演：中野振一郎(チェンバロ、ピアノ)、  
川田知子(ヴァイオリン)  
演奏会：楽器博物館 天空ホール 17:45～18:45  
入場者：111人  
交流会：研修交流センター62室 19:00～20:30  
参加者：63人

## 城北図書館 音楽のまち講座「アフリカの楽器を知ろう、遊ぼう、楽しもう！」



日 時：平成 29 年 12 月 16 日（土）14:00～15:30  
 会 場：浜松市城北図書館 2 階講座室  
 講 師：ロビン・ロイド  
 参加者：小学生 12 人

浜松市立城北図書館との連携企画で、小学生対象の講座を行いました。この企画は昨年度より始まったものです。1冊の絵本の読み聞かせをして、その本に出てくる楽器や音楽、また、描かれた国や地域の文化を知ろう、という趣旨のものです。第3回となる今回は、講師にロビン・ロイドさんをお迎えし、アフリカの音楽についてお話をききました。

今回の読み聞かせでは特別に、絵本「アフリカのおと」の情景に合わせて、ロイドさんが様々な楽器を使って演奏してくださいました。その音楽によって、子ども達は自然とアフリカの世界に誘われていきました。

講座の中では、ジェンベという太鼓や片手で演奏する笛、親指ピアノ、足首に巻いて足踏みをする度に鳴る木の実の楽器など、アフリカをはじめとした多民族の楽器の演奏をしながら、アフリカの音楽についてお話してくださいました。子ども達の楽器体験の時間もありましたが、途中の休憩時間や講座終了後もアフリカの楽器に魅了されている子ども達がたくさんいました。

私たちはしばしば、一言で“アフリカ”という表現をしてしまいがちですが、この講座を通して、アフリカという地域には様々な民族がいて、それぞれに大切な文化があるということに気付くことができたのではないかと思います。

## 企画展関連ワークショップ「オリジナル絵葉書を作ろう!!」

企画展「小さな可愛い世界旅行～人形・切手の楽器たち～」の関連イベントとして、オリジナルの絵葉書を作るワークショップを開催しました。

このワークショップは展示してある人形のイラストが印刷された絵葉書に、参加者が自由に色を塗ってオリジナルの絵葉書を作成するというものです。イラストは全部で5種類あり、中国のミャオ族の男の子が「ルーシェン」という楽器を持っている人形や、モンゴルの民族衣装を着た男性が「馬頭琴」を演奏している人形、ハワイの女の子が「ウリウリ」という楽器を持ってフラダンスを踊る人形などを用意しました。

子どもから大人まで幅広い世代のお客様が参加され、小学生の男の子が黙々と色を塗ったり、家族や友人と会話しながら塗ったり、中には「塗り絵なんて何十年ぶりです」と久しぶりの塗り絵を楽しむお客様もいらっしゃいました。見本と同じように色を塗る方もいれば、個性的な色使いをする方、背景に絵を書いたり、人形や国のイメージを膨らませて装飾をしたりと、ひとつとして同じものがないオリジナルの絵葉書を作成していました。

完成した絵葉書は持ち帰っていただきましたので、自分で塗った絵葉書を手に企画展に展示してある人形を見学される方もいらっしゃいました。企画展開催中のみのワークショップでしたが、多くの方に楽しんでいただきました。



日 時：平成 29 年 11 月 24 日（金）、11 月 29 日（水）、12 月 2 日（土）、12 月 23 日（土・祝）、平成 30 年 1 月 6 日（土）、1 月 7 日（日）、1 月 13 日（土）10:30、13:00（各 30 分）  
 会 場：楽器博物館 天空ホール  
 参加者：87 人

## ミュージアムサロン「アフリカの音楽」



日 時：平成 29 年 12 月 17 日（日）14:00、15:30（各 30 分）  
 会 場：楽器博物館 天空ホール  
 出 演：ロビン・ロイド  
 入場者：121 人

ロビン・ロイドさんによる「アフリカの音楽」のミニコンサートを開催しました。片手で演奏する笛や、楽器のボディが缶詰の空き缶で作られた親指ピアノ、展示品のアフリカの木琴・バラフォンなど、日本で生活する人にはあまりなじみのない楽器も多くあり、お客様は釘付けになっていました。

特に親指ピアノの紹介の際、「私たちがよく使っている“ドレミファソ”の音の並び方ではない楽器はたくさんあります」という話をされた時は、客席から驚きの声がありました。

学校の音楽の授業では扱われない楽器や音楽も世界にはたくさんあります。その中から教科書に選ばれたものが優れているということではなく、どれも素晴らしい芸術で、文化です。

このミニコンサートを通して、様々な音楽に触れる楽しさを感じられたのではないのでしょうか。

## ミュージアムサロン「クリスマスコンサート」

12月24日（日）に当館職員の松尾圭子と野口夏菜によるクリスマスコンサートを開催しました。クリスマスに因んだ作品やマスネ作曲「タイスの瞑想曲」、ドビュッシー作曲「シリンクス」などのクラシック作品も演奏されました。ピアノのソロでの演奏もあり、来場されたお客様はフルートの温かい音色やピアノの穏やかな響きをじっくりと聴き入っていました。また、フルートについての簡単な解説もありました。現在の一般的なフルートは銀や金などの金属が使われていますが、昔は木や象牙でできていたというお話もしたため、ミニコンサートの後に改めて館内に展示してある楽器を見学しに行かれるお客様もいらっしゃいました。

館内には大きなリースを、ステージ上にはクリスマスツリーを用意し、クリスマスイヴにふさわしいミニコンサートとなりました。



日 時：平成 29 年 12 月 24 日（日）（各 30 分）  
 会 場：楽器博物館 天空ホール  
 出 演：松尾圭子（フルート / 当館職員）  
 野口夏菜（ピアノ / 当館職員）  
 入場者：124 人

## ミュージアムサロン「世界を旅する音楽」



日 時：平成 30 年 2 月 4 日（日）14:00、15:30（各 30 分）  
 会 場：楽器博物館 天空ホール  
 出 演：川村菜穂子（作曲 / ピアノ / 鍵盤ハーモニカ）  
 内山沙衣子（ピアノ / クラリネット / マンドリン）  
 加藤雄樹（パーカッション）  
 小池真梨（フルート / エアロフォン / 当館職員）  
 入場者：122 人

川村菜穂子さん、内山沙衣子さん、加藤雄樹さん、当館職員の小池真梨によるミニコンサートを開催しました。川村さんが当館主催のコンサートに参加したときにインスピレーションを受けてつくられた曲や、電子管楽器「エアロフォン」のためにつくられた曲「TravelAerophone」の新作初演も行われました。エアロフォンは 100 種類以上の音を出すことができます。バグパイプや尺八、二胡などの音が使用され、まるで世界を旅するような内容の作品でした。最新の電子管楽器とともに、クラリネットやマンドリン、鍵盤ハーモニカ、パーカッションなどのアコースティックな楽器の音が組み合わせることにより、今までにない音楽を感じていただけたのではないのでしょうか。

また演奏以外にも、作曲された川村さんからは曲に関するお話もありました。作曲家の方から直接お話を聴く機会はなかなかないので、貴重な時間をお客様も楽しまれていました。

## 平成 29 年度移動楽器博物館「わくわく楽器ランド」



今年度の移動楽器博物館「わくわく楽器ランド」が全て終了しました。この移動楽器博物館は平成 12 年度に開始したもので、今年度で 18 年目、開催校は累計 132 校となりました。毎年、浜松市立の小学校の中から応募・抽選を経て開催校が決定され、今年度は 5 校開催しました。

基本的には1クラスにつき 45 分間の授業を行います。使用する楽器は、持ち運べること、そして全学年の小学生が体験できるものを選んでるので、種類としては決して多いとはいえません。しかし、移動楽器博物館の授業時間は、単純に楽器を体験するというだけではなく、目の前にある楽器を通して、その楽器が使われる国や地域の文化、民族、気候、楽器の素材や仕組みなどを考える時間です。子どもたちも先生も、初めて触れる楽器に興味津々。授業時間後に、お気に入りになった楽器を伝えに来てくれる子どももいます。

これからも、「音楽」「楽器」という枠だけに囚われない学びのある移動楽器博物館を開催していきます。

平成 29 年度開催校：

- 6月12日(月)～6月16日(金) 富塚小学校
- 9月11日(月)～9月14日(木) 城北小学校
- 9月25日(月)～9月29日(金) 舞阪小学校
- 11月1日(水)～11月2日(木) 上阿多古小学校
- 1月22日(月)～1月29日(月) 瑞穂小学校

## 講座 楽器の中の聖と俗「音楽に息づく民族のプライド」(全4回)

シリーズ「楽器の中の聖と俗」の第 71～74 回を開催しました。講師には大阪音楽大学名誉教授で当館の名誉館長である西岡信雄さんをお招きし、今年度は「音楽に息づく民族のプライド」という題名で行いました。

各回で扱う国・地域を変え、「砂漠の国の楽士たちⅠ ウズベキスタン」、「砂漠の中の楽士たちⅡ トルクメニスタン」、「ピレネーの少数民族Ⅰ プロヴァンス / ラングドック地方」、「ピレネーの少数民族Ⅱ 南仏バスク地方」についてお話いただきました。

西岡さんがこれまでに世界中で調査・収集されてきた貴重な動画も見ながら、その土地の名手の演奏から、町の人々の演奏まで、様々な音楽や言語、また、踊りにも触れることができました。中には、人前で演奏することを好まない方が演奏する映像もありました。そのような演奏風景を私達も見られるというのは、大変幸運なことです。これも西岡さんの人徳の成せる業です。

世界の少数民族の文化は、残そうと相当な努力をしないと消えていってしまっているというのが現状です。しかし、少数民族だからこそ、アイデンティティ(他と区別された独自の性質、帰属意識、自分とは何者か意識すること等)を強く持ち、表現しようとする、その誇り高さに引き込まれました。



日時：平成 29 年 12 月 4 日 (月)、12 月 18 日 (月)、  
平成 30 年 1 月 15 日 (月)、1 月 29 日 (月)  
全て 19:00～20:30

会場：楽器博物館展示室  
講師：西岡信雄 (大阪音楽大学名誉教授・浜松市楽器博物館名誉館長)  
受講者：のべ 98 人

## 親子ワークショップ「フェルトで楽器の絵を作ろう！」



日時：平成 29 年 12 月 16 日 (土) 13:30～16:00  
会場：研修交流センター 52 会議室  
講師：安岡真理 (静岡市美術館学芸員)、森谷紗世 (同)  
参加者：親子 10 組

12 月 16 日 (土) に親子ワークショップ「フェルトで楽器の絵を作ろう！」を開催しました。このワークショップは、静岡市美術館学芸員の安岡真理さん、森谷紗世さんを講師としてお招きし、親子で羊毛フェルト (毛糸) を使って楽器の絵を作り、額に入れ完成させるというものです。

ワークショップでは、さまざまな国や地域の楽器を絵の素材として展示し、当館館長による楽器の解説の後、子どもたちがそれぞれ絵にしたい楽器を選びました。その後、下地となるフェルトシートと、さまざまな色の羊毛フェルトから楽器に合う色のもを選び、羊毛フェルトを専用の針で刺して下地にくっつける作業を行いました。子どもたちが羊毛フェルトの色選びとレイアウトをし、親がそれを針で刺していくという、親子の分担作業で作品作りは進められました。始めのうちは、まっさらな下地に自分で楽器を成形することに戸惑う子どもたちの様子も見られましたが、作業を進めていくうちに実物に似せるだけではなく、自分なりの工夫を織り交ぜて、一人ひとりのオリジナリティー溢れる素敵な絵が完成しました。また、今回の作品作りを通して親子の絆もより深められたのではないのでしょうか。

額に飾った自分の作品を、嬉しそうに眺める子どもたちの姿が印象的でした。

## 子どもワークショップ いちげんきん 「弦が一本だけのお琴“一絃琴”で、日本の優しい心を感じてみよう！」

1 月 14 日 (日) の子どもワークショップでは清虚洞一絃琴宗家四代目の峯岸一水さんをお迎えして、一絃琴について教えていただきました。

一絃琴はその名のとおり、弦が一本張られているお琴です。江戸時代より日本の慎ましい美意識を尊ぶ楽器として今日まで受け継がれてきました。演奏する際には右手の人指し指と左手の中指に蘆管 (ろかん) と呼ばれる筒型の爪をつけ、左手で弦を押さえて音の高さを変え、右手で弦を弾いて音を出します。

今回のワークショップで使った一絃琴の楽譜は、五線譜ではなく、縦に漢数字が書いてあるものでした。ほとんどの方が一絃琴に初めて触れ、縦書きの楽譜も初めて見たとのことでしたが、皆さん上手に演奏していました。

ワークショップの後半では畳の上で一絃琴を用意し、演奏の前後に作法もつけて一人ずつ音を出しました。作法の中には礼がありますが、聴いていただくお客様へだけではなく、楽器に対しても心を込めてお辞儀をします。全員とても真剣に楽器と向き合っていました。

感想を聞くと「楽しかった」という声の他に、「緊張した」という声もありましたが、楽器の繊細な音色からも日本の心を感じることができたのでは、と思います。



日時：平成 30 年 1 月 14 日 (日)  
13:00～14:30、15:00～16:30

会場：研修交流センター 37 室  
講師：峯岸一水  
参加者：小学生 10 人  
助成：ホテルオークラ東京、企業メセナ協議会